



十勝農業協同組合連合会

事業案内

TOKACHI NOKYOREN
BUSINESS GUIDE



代表理事会長
鈴木 雅博

ご挨拶

十勝農業協同組合連合会は十勝地区 23 J A を会員とする地区連合会であり、関係機関との連携のもと、会員 J A・組合員をサポートする事業を行っています。設立以来、生産に関わる指導業務が事業の柱ですが、近年においては食の安全・安心を担保するシステムの一翼を担うほか、十勝産農畜産物のブランド化・高付加価値化の推進などにも取り組んでいます。

十勝では、25 万 ha の耕地に畑作と畜産が両立し、生産性の高い大規模な農業が展開されています。長年に亘り築き上げてきた生産基盤と恵まれた環境・資源を活かし、生産性と品質の向上を図りながら、2026 年の農業生産額目標 4,100 億円の達成に向けて、関係者一丸となって取り組んでいるところです。

農業をめぐる情勢は課題山積ですが、本会の事業運営並びに十勝の農業に對しまして、皆様のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

経営理念

【組織使命】

- ・本会は、会員が協同してその事業の振興を図り、もってその組合員の農業の振興、経済状態の改善および社会的地位の向上に寄与することを目的とします。
- ・本会は、公正な職場と健全な取引関係を築きあげ、仕事を通じて地域社会に貢献していきます。
- ・事業は公正であることを基本とし、地域社会を豊かにすることを使命とします。

【経営姿勢】

- ・事業は「公正」、「誠実」を旨とします。
- ・全ての物事の判断基準は「会員・組合員」・「利用者」の立場を起点とします。
- ・「他者への配慮」の姿勢を持って、事業を運営します。
- ・地域と共生する組織として、「社会的責任」を念頭に事業を運営します。

【行動規範】

- ・常に「感謝の心」を忘れずに行動します。
- ・時代の変化に対し、「チャレンジ精神」で望みます。
- ・仕事の「プロフェッショナル」を目指します。
- ・「順法精神」に則り行動します。

沿 革

- 昭和 22 年 農協法公布・施行
昭和 23 年 十勝管内29総合農協と1畜産農協を会員とし設立
(北海道農業会十勝支部・十勝馬匹組合資産継承)
昭和 24 年 耕土改良事業開始
第1回十勝家畜共進会開催
昭和 26 年 馬鈴しょ採種事業開始
昭和 27 年 家畜人工授精事業開始
昭和 28 年 根粒菌事業開始
昭和 36 年 車両整備事業開始
昭和 40 年 外国鶏生産販売開始
昭和 42 年 種馬種付・育成事業開始
昭和 44 年 農協連ビル(旧事務所)建設
昭和 45 年 根粒菌特許権取得
豆類種子センター新設
昭和 48 年 ホルスタイン雌牛育成預託事業開始
昭和 49 年 根粒菌ノーキュライド加工開始
帯広競馬場スタンド新築
昭和 51 年 十勝農業広域電算事業開始
十勝レンダリングプラント操業開始
海外農業研修視察事業開始
昭和 52 年 十勝農業賞制定
昭和 56 年 生乳分析事業開始
昭和 57 年 土壌・飼料分析事業開始
昭和 59 年 病畜処理事業開始
組織培養事業開始
昭和 60 年 酪農経営情報システム事業開始
昭和 61 年 十勝地域農業情報システム事業開始
昭和 62 年 研究農場開設
昭和 63 年 小麦種子消毒事業開始
平成 2 年 馬の資料館開館
平成 3 年 豆類原々種生産事業開始
生菌検査事業開始
平成 4 年 組合員情報ネットワーク事業開始
平成 6 年 十勝化成工場落成・運営開始
平成 7 年 牧草種子コーティング事業開始
平成 8 年 病害虫検診事業開始
平成 10 年 全天候型共進会場(アグリアリーナ)新築
平成 12 年 根粒菌リゾビウム加工開始
平成 15 年 残留農薬自主検査事業開始
死亡畜専用処理工場運用開始
平成 16 年 フィールドアドバイザー広域活用モデル事業開始
平成 17 年 農産物生産履歴システム運用開始
平成 19 年 営農支援システム「てん蔵」運用開始
平成 20 年 十勝酪農畜産物生産履歴システム運用開始
乳温遠隔監視記録システム運用開始
平成 21 年 十勝地域生産者対面施肥設計システム運用開始
平成 23 年 十勝型GAPチェックリスト集計システム運用開始
平成 29 年 TAFシステム(十勝地域組合員総合支援システム)
運用開始
令和 4 年 農協連ビル(現事務所)新築

十勝農業の概要

十勝の農業は開拓以来、寒冷な厳しい気象条件にありながらも近代技術の導入や排水改良などの土地基盤整備を進め、今日では我が国の食料供給を担う重要な役割を果たしています。1経営体当たりの経営耕地面積45.5haは都府県平均の18倍の規模で、恵まれた土地資源を活かし、大規模で機械化された生産性の高い農業を展開しています。

畑作は、麦類、豆類、馬鈴しょ、てん菜の4品目を主体とした輪作体系が確立され、多くの品目で全道一の生産量を誇り、野菜は、長いもやにんじん等の根菜類をはじめ、スイートコーンや葉物など多種多様な品目が生産されています。特に主要品目である長いもを筆頭に、えだ豆、ゆり根などが海外へも輸出されています。

また、酪農は乳牛飼養農家1戸あたりの飼養頭数が約220頭と大規模化が進み、EU諸国の水準に匹敵する規模となっています。

● 十勝農業の生産規模① 《面積・頭数》

品目	年	十勝	全道に占める割合	全国に占める割合
小麦	2023	44,600 ha	33.7%	19.2%
豆類 (大豆・小豆・いんげん)	2023	30,334 ha	42.3%	16.4%
てん菜	2023	22,600 ha	44.1%	—
馬鈴しょ	2023	22,300 ha	46.0%	31.3%
乳用牛 (飼養頭数)	2020	234,400 頭	28.9%	17.7%
肉用牛 (飼養頭数)	2020	221,470 頭	42.9%	9.8%

資料：十勝総合振興局「2024十勝の農業」

● 十勝農業の生産規模② 《生産量》

品目	年	十勝	全道に占める割合	全国に占める割合
小麦	2023	293,700 t	41.0%	26.8%
大豆	2023	36,400 t	31.5%	14.0%
小豆	2023	19,522 t	67.1%	63.2%
いんげん	2023	3,705 t	75.5%	71.5%
てん菜	2023	1,535,000 t	45.1%	—
馬鈴しょ	2023	889,700 t	46.4%	37.6%
生乳	2023	1,259,000 t	30.2%	17.2%

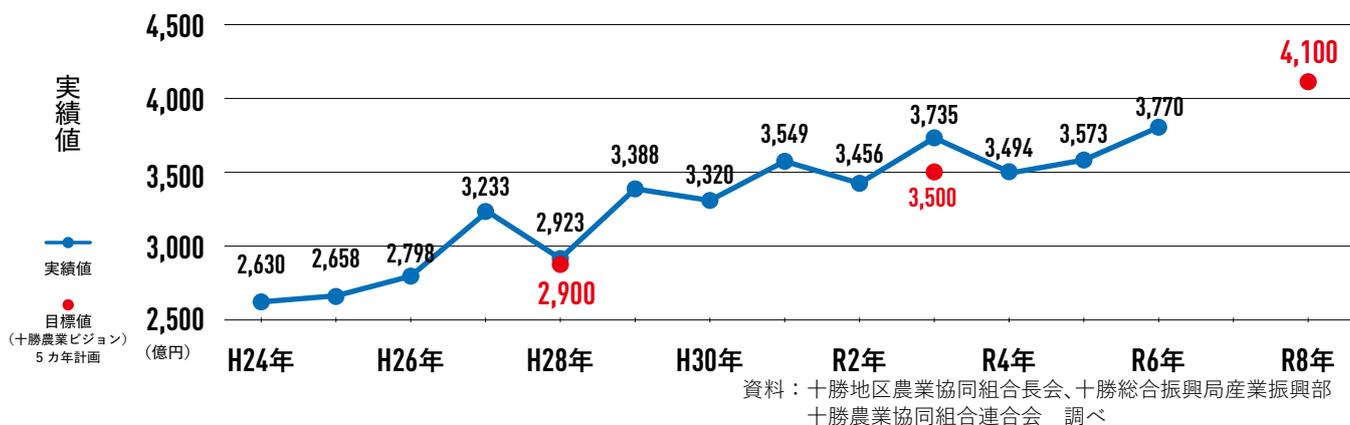
資料：十勝総合振興局「2024十勝の農業」

十勝農業ビジョン2026

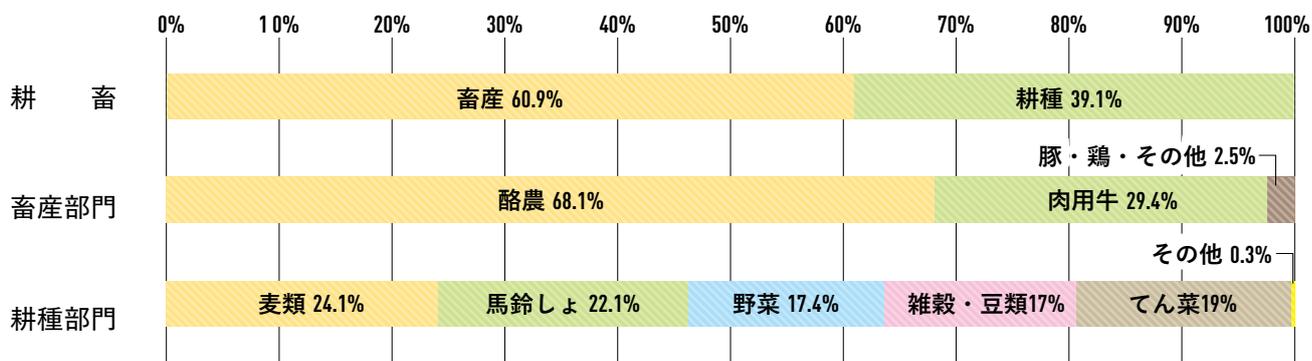
農業生産額目標 **4,100** 億円

J Aネットワーク十勝と十勝農業協同組合連合会は、5年ごとに「十勝農業ビジョン」として農業生産額の目標を策定しています。このビジョンの策定においては、組合員アンケートやJ Aの生産意向調査・諸課題に関する聞き取り調査、関係団体との意見交換なども実施し、十勝の課題と解決に向けた方向性を検討しています。本内容は、本会はもとより関係機関の地域農業振興計画や事業計画の策定に活用されることで、目標達成に向けて十勝一丸となって取り組んでいます。

十勝における農業生産額の推移



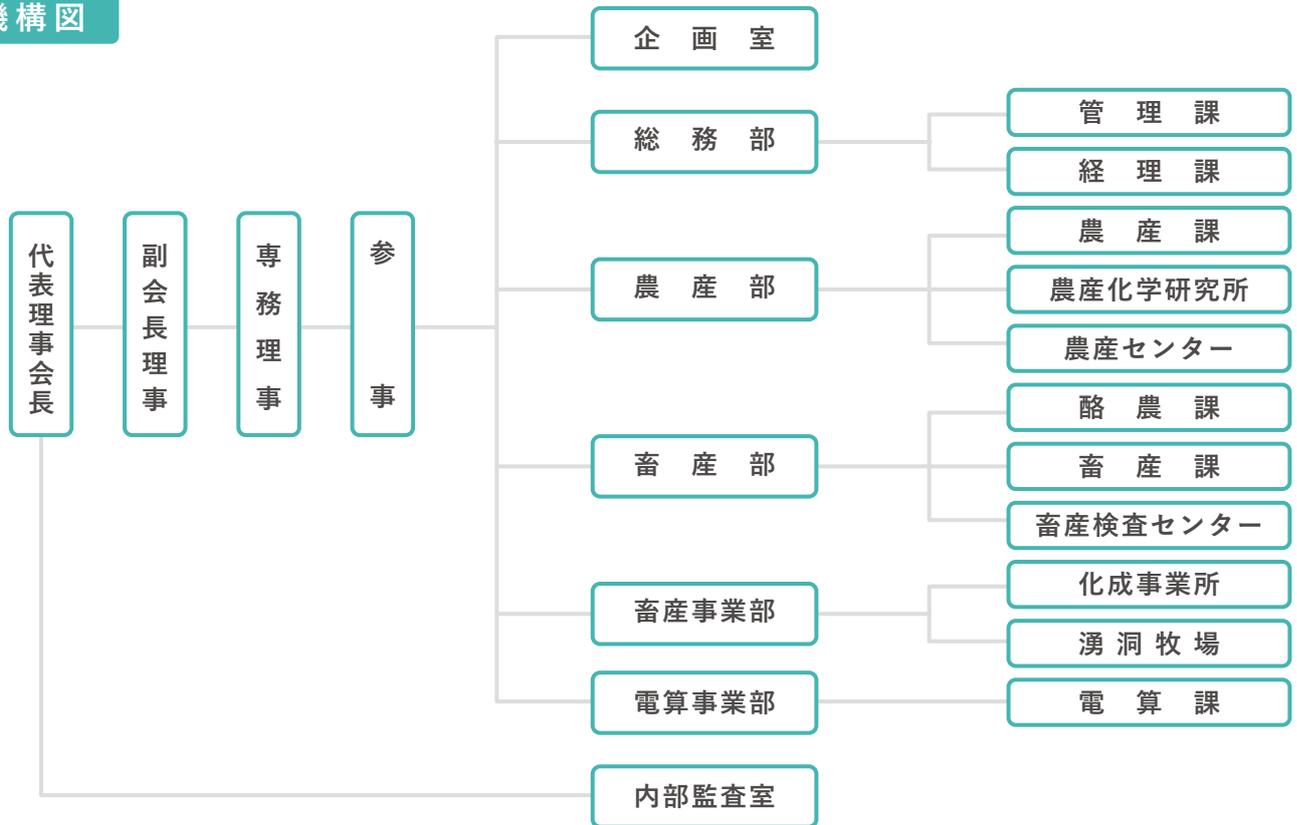
農業生産額の品目別構成比



資料：十勝地区農業協同組合長会、十勝総合振興局産業振興部
十勝農業協同組合連合会 調べ

事業の概要

機構図



企画室

■十勝農業の発展に向けた企画業務の推進

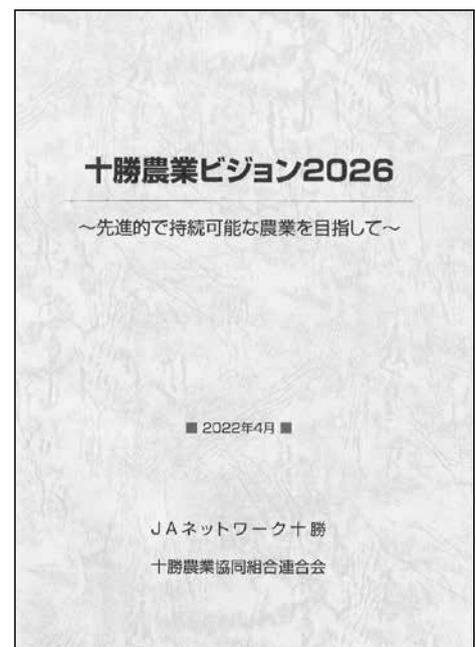
十勝農業ビジョンの策定と推進を担当する部署として、国内外の情勢分析と十勝農業の将来予測ならびに諸課題に関する調査研究に取り組むほか、農家戸数、農業所得、農協取扱高などの動態調査を行っています。

■営農支援体制の拡充と人材育成

J A の組合員相談機能の強化に向けた経営管理分析ツールの整備や営農指導担当者のスキルアップ支援、農協役職員海外研修視察の企画、農業後継者等の海外農業実習に対する助成事業を行っています。また、コントラクター組織のサービスの向上と運営基盤の強化等を目的とした十勝地区農作業受委託事業協議会の事務局を担うほか、農家労働力の確保対策に携わっています。

■G A P の推進と十勝農業のファンづくり

安全・安心を担保する十勝型G A P の推進と国際水準G A P 認証取得の支援、十勝農業の魅力発言とファンづくりに取り組んでいます。



十勝農業ビジョン2026

■ 業務執行体制の強化

会員J A・組合員の負託に応えた事業を展開していくために、職員教育の充実による資質向上とコンプライアンス意識の定着、組織の信頼性向上を基本に、活力ある組織づくりに取り組んでいます。

■ 財政基盤の確立

経営収支の安定と経営基盤強化のため自己資本の充実を図るとともに、資金の効率的な運用により財務基盤の確立に取り組んでいます。

■ 資産の運営管理と効率的運用

本会設立時に十勝馬匹組合などから継承した資産である帯広競馬場をはじめ、農協連ビルや家畜共進会場（アグリアリーナ）などの本会所有施設・資産の維持管理と効率的運用に努めています。

■ 「T A Fシステム」の利活用推進と運用管理

生産者やJ A担当者がスマートフォン等により現場で迅速に営農関連情報を入手・利用できるT A Fシステムの利活用と運用管理を行っています。

主なシステム

1. 農産物・酪農畜産物生産履歴システム
2. マッピング・施肥設計システム
3. 十勝型G A Pシステム
4. 乳温遠隔監視記録システム
5. 土壌・飼料分析結果照会
6. 個別農場情報
(組勘取引明細・残高の照会等)
7. F A Xお知らせ
(掲示板・一般・親展)
8. 営農w e b てん蔵 (気象情報等)



T A Fシステム ポータル画面

■ 農協業務システムの安定稼働および効率化に向けた開発と運用

農協基幹業務システムの開発、運用サポートをはじめ、メールシステムの運用管理、情報セキュリティの強化、ハードウェア・通信回線の整備、さらには情報利活用のための教育研修などを行っています。

■ 法令・定款・諸規程類の遵守と経営目的の達成

コンプライアンスを遵守し、業務運営の適正化を図るとともに、経営目的達成と業務の効率化・改善を取り進めます。

■ 効率的な監査の実施

関係機関と連携し、効率的な監査を実施します。

■農産物の生産力向上に向けた取り組み

「TAFシステム（十勝地域組合員総合支援システム）」の構築により、ICTを活用した畑作物生産技術の導入を推進しています。また、てん菜・野菜類における直播栽培技術の導入や野菜栽培の省力化に向けた機械化を進めています。

■強固で豊かな生産基盤の構築

病虫害発生情報を会員JAに提供するとともに、発生要因の解析および防除対策を検討しています。また、圃場の排水性改良や畑輪作における飼料用とうもろこしの導入に取り組んでいます。

～提供している病虫害発生情報～

- ・馬鈴しょアブラムシ発生情報・ながいもアブラムシ発生情報
- ・馬鈴しょ疫病防除開始目安・大豆アブラムシ防除適期目安

■畑作物種子の安定供給対策

畑作物種子の安定供給を図るため、原採種圃面積の維持、拡大ならびにJA間受委託生産を進めています。また、圃場管理の現地指導を行うとともに、技術研修会などを開催しています。ジャガイモシストセンチュウまん延防止対策、ウイルスや細菌による種子伝染性病害の検定ならびに豆類・麦類種子発芽検定を実施し、種子の病虫害防除対策や品質維持に努めています。

主要畑作物種子取扱数量（令和6年度）

作物名	配付数量（t）
馬鈴しょ	32,945
豆類	1,762
秋播小麦	4,838

■有用微生物資材の開発・製造・普及

根粒菌やアゾスピリラム菌など、農作物に有用な微生物を用いた資材の開発・製造・普及に取り組んでいます。

～販売している有用微生物資材～

まめぞう、豆の応援団、ネフェール（てんさい用・たまねぎ用）、ネフェール液剤



根粒菌まめぞう



アゾスピリラム菌資材ネフェールシリーズ

■分析事業

土壌、飼料、作物体や堆肥の分析を行っています（計量証明事業所として登録）。

また、安全・安心な農産物生産を支援するために、農産物の残留農薬自主検査や病害虫検診を行っています（ISO/IEC 17025認定）。

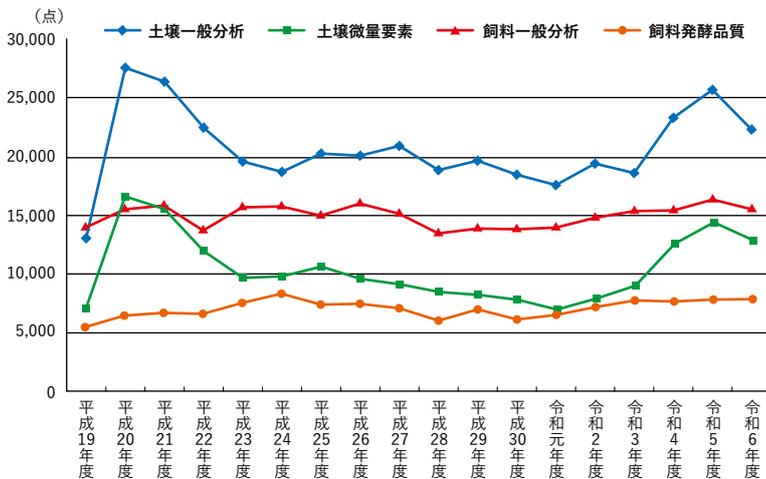


農産化学研究所



土壌・飼料分析

土壌・飼料分析点数の推移（平成18年度～令和6年度）



病害虫検診

土壌・飼料分析点数（令和6年度）

単位/点

土壌分析		飼料分析				その他分析		
一般分析	微量元素	一般分析	発酵品質	硝酸態窒素	蛋白分画	微量ミネラル	堆肥	作物体
22,348	12,901	15,723	7,816	2,056	4,238	1,986	1,104	1,773

■豆類および麦類種子の調整・加工

原採種圃産豆類および麦類種子の調整ならびに加工（豆類は根粒菌接種、麦類は種子消毒）を行い、配付しています。

また、災害に備え年間165tの豆類種子を備蓄しています。



農産センター

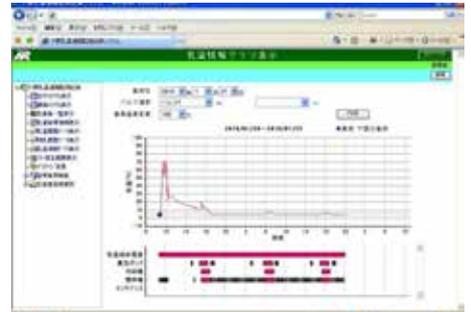
■十勝酪農畜産物安全・衛生対策の取り組み

「T A Fシステム」により、牛の出生から出荷までの飼料給与情報や治療情報などを管理するとともに、牧場経営に有益な情報のフィードバックに取り組んでいます。特に安全性が求められる生乳の管理では、貯乳中の乳温をリアルタイムに集中監視する「乳温遠隔監視記録システム」を構築し、十勝型「食の安全確保体制」の確立に取り組んでいます。

また、大学や関係機関の協力を得て、家畜伝染性疾病のまん延防止対策に取り組んでいます。



T A Fシステム

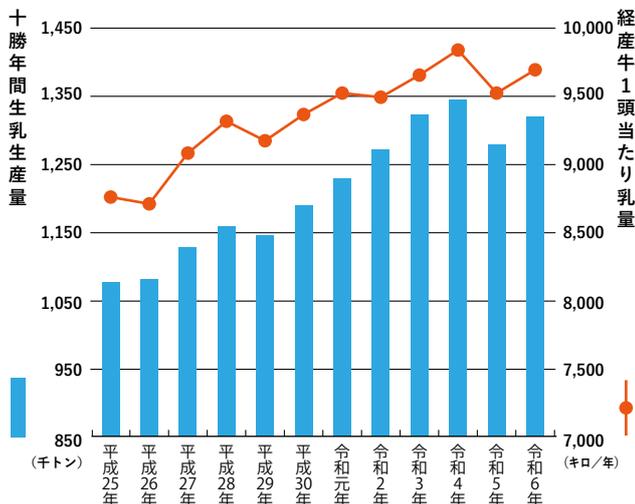


乳温遠隔監視記録システム

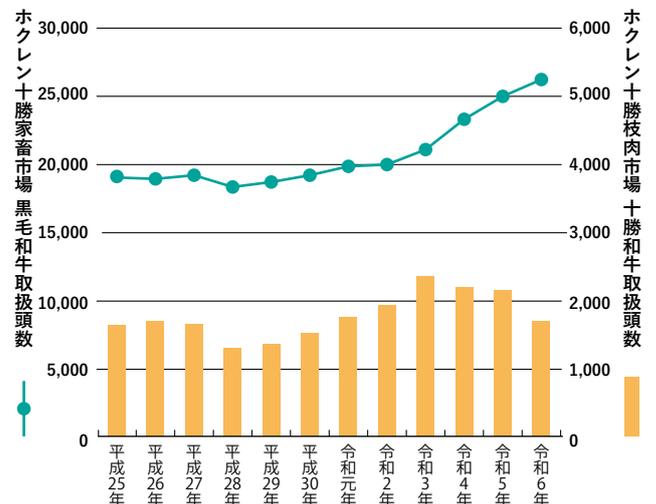
■酪農・畜産物生産技術対策の取り組み

飼料設計や飼養管理改善などの現地支援を行い、生乳生産性の最大化と牛供用年数の延長に取り組んでいます。地域ブランド「十勝和牛」確立のために発育、資質に優れた素牛生産と高品質和牛肉の安定生産に取り組んでいます。また、重種馬生産頭数の維持・拡大のため、優良種雄馬の配置や生産率向上などの振興対策を推進しています。

生乳生産量と経産牛1頭当たり乳量の推移



黒毛和種家畜・枝肉市場取扱頭数の推移



■人材育成と情報提供の取り組み

大学や試験研究機関の協力を得て各種セミナーを企画・開催し、最新技術や優良事例などの情報提供を通して人材育成に取り組んでいます。

また、十勝管内の生産基盤状況や市場販売情報などを分析した統計資料を提供し、会員J Aおよび関係機関との情報共有および課題把握に取り組んでいます。



十勝酪農フォーラムの風景

■家畜改良増殖の取り組み

十勝乳牛・和牛の改良目標を定め、生産能力に優れた管内飼養牛の受精卵を生産・流通する体制構築に取り組んでいます。

また、会員生産者の改良意識向上のため、十勝総合畜産共進会を開催しています。



十勝総合畜産共進会審査風景

■生乳検査事業の推進

生乳の成分率・体細胞数・細菌数の検査のほか、乳房炎の菌種同定検査や牛伝染性疾患の感染確認検査、牛の妊娠確認検査を行っています。

これら検査情報は速やかに生産現場までフィードバックされ、乳質の改善や家畜自衛防疫、飼養管理対策などに活用されています。



生乳検査業務風景

■良質生乳生産および乳房炎防除対策の推進

高品質で安全な生乳を安定的に供給するため、搾乳現場から生乳輸送用タンクローリーに至る衛生管理対策を行っています。また、乳房炎感染による経済的損失を最小とするため、搾乳作業や機器・飼養管理などの現地改善対策を関係機関と連携して推進しています。

畜産事業部

■化成事業の運営と推進

十勝管内畜産農家からの死亡家畜および屠畜場、食肉処理場からの骨、残査などの不可食副産物を畜産有用資源として再利用できるよう衛生的かつ効率的な処理に努めています。

また、十勝管内生産者および会員J A・関係獣医師に対する生産指導支援業務として、専門獣医師による死亡家畜の死因解剖調査を実施しています。



化成事業所

■預託事業の取り組み

経営規模の拡大や安定した酪農経営を支援するため、広大な放牧地と自給飼料生産基盤を有効活用し、乳用育成牛の預託事業に取り組んでいます。健康な優良牛生産のために、飼養管理と良質自給粗飼料生産技術の向上に努めるとともに、万全な防疫体制を推進し、預託者に信頼される牧場運営に努めています。



湧洞牧場



十勝農業協同組合連合会

〒080-0022 帯広市西12条南6丁目3番地1



www.nokyoren.or.jp

総務部管理課 (施設)	☎ 0155-65-0535 ☎ 0155-65-0534	農産部農産課	☎ 0155-65-0538 ☎ 0155-65-0539	電算事業部	☎ 0155-65-0545 ☎ 0155-65-0546
経理課	☎ 0155-65-0533		☎ 0155-65-0540		
内部監査室	☎ 0155-65-0547	畜産部酪農課	☎ 0155-65-0541		
企画室	☎ 0155-65-0536 ☎共通 0155-65-0537	畜産課	☎ 0155-65-0542 ☎ 0155-65-0543		

事業所

・畜産検査センター

〒080-0024 帯広市西14条南6丁目1番地
☎ 0155-36-5601 ☎ 0155-34-3266

・農産化学研究所

〒080-2464 帯広市西24条北1丁目1番地7
根粒菌・残農・病害虫
☎ 0155-37-4325 ☎ 0155-37-4327
飼料・土壌分析
☎ 0155-37-4326 ☎ 0155-37-4329

・農産センター

〒080-2464 帯広市西24条北1丁目1番地7
☎ 0155-37-2150 ☎ 0155-37-4551

・化成事業所

〒089-1372 中札内村元札内東2線51番地
☎ 0155-69-4121 ☎ 0155-69-4122

・湧洞牧場

〒089-1881 広尾郡大樹町字生花181番地1
☎ 01558-7-8139 ☎ 01558-7-8150



会員農業協同組合

帯広市川西農業協同組合
帯広大正農業協同組合
中札内村農業協同組合
更別村農業協同組合
忠類農業協同組合
大樹町農業協同組合
広尾町農業協同組合
芽室町農業協同組合

十勝清水町農業協同組合
新得町農業協同組合
鹿追町農業協同組合
木野農業協同組合
音更町農業協同組合
士幌町農業協同組合
上士幌町農業協同組合
札内農業協同組合

幕別町農業協同組合
十勝池田町農業協同組合
豊頃町農業協同組合
浦幌町農業協同組合
本別町農業協同組合
足寄町農業協同組合
陸別町農業協同組合